

令和 4年 9月

魚谷 竜 学位論文審査要旨

主 査 景 山 誠 二

副主査 山 崎 章

同 宮 崎 大

主論文

Antiviral cytotoxic T lymphocyte responses for long term prognosis of corneal infection by cytomegalovirus in immunocompetent subjects

(非免疫不全者におけるサイトメガロウイルス (CMV) 角膜炎の長期予後と細胞傷害性T細胞の応答性)

(著者：魚谷竜、宮崎大、清水由美子、大谷史江、春木智子、佐々木慎一、小山あゆみ、井上幸次、錫谷達夫)

令和4年 Scientific Reports doi:10.1038/s41598-022-09312-8

参考論文

1. Corneal endothelial cells activate innate and acquired arm of anti-viral responses after cytomegalovirus infection

(角膜内皮細胞はサイトメガロウイルス感染により、ウイルスに対する自然免疫および獲得免疫を活性化する)

(著者：宮崎大、魚谷竜、井上美智子、春木智子、清水由美子、矢倉慶子、山上聡、錫谷達夫、細貝真弓、磯村寛樹、井上幸次)

平成29年 Experimental Eye Research 161巻 143頁～152頁

2. Effectiveness of 16S ribosomal DNA real-time PCR and sequencing for diagnosing bacterial keratitis

(細菌性角膜炎の診断における16SリボソームDNAリアルタイムPCRおよびシーケンスの有効性)

(著者：清水大輔、宮崎大、江原二三枝、清水由美子、魚谷竜、稲田耕大、佐々木慎一、井上幸次)

令和2年 Graefe's Archive for Clinical Experimental Ophthalmology
258巻 157頁～166頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、免疫能が正常な個体におけるサイトメガロウイルスによる角膜内皮炎の発生機構を解明するために、細胞傷害性T細胞（CTL）反応とサイトメガロウイルス角膜内皮炎の転帰や予後との関連を検討したものである。その結果、サイトメガロウイルス抗原蛋白であるpp65特異的CTL応答が再発を抑え、内皮細胞の消失から角膜を保護することを明らかにした。一方、別のサイトメガロウイルス抗原蛋白であるIE1特異的CTL応答は、適切なpp65特異的CTL応答が誘導されない場合、角膜移植や緑内障手術を必要とする予後不良因子となることが判明した。本論文の内容は、角膜内皮傷害の予防・診断・治療につながる重要な知見であり、眼科領域において明らかに学術水準を高めたものと認める。